

宇和島発信 スイーツ 中高生競う



グランプリに輝いた北宇和高校三間分校のアイデアを
基にした試作品

宇和島市の中心商店街で19日、食のイベント「うわじま食ー1グランプリ」があり、市内の中高生が地元の特産品を使ったスイーツのアイデアを競うコンテストで、北宇和高校三間分校（同市三間町戸雁）が考案した、特産の「みま米」や果物を使った大福がグランプリに輝いた。

食を通じて地域活性化につなげようと宇和島商工会議所青年部と

三間分校考案の大福グランプリ



地元の特産品を使ったスイーツのアイデアを披露する三間分校の生徒

宇和島袋町商店街振興組合が開いた。コンテストには約30の学校や生徒から応募があり、入賞した5作品は市内の菓子店などが試作し、審査員が美食して最終評価した。

三間分校の「地域情報ビジネス部」の「美沼フルーツミックス」は、みま米や同校で育てた黒米で餅を作り、中にあんと柿などを入れた。ステージ発表で3年の稲田千晴さん(18)らは、地名の「美沼」が由来で、季節に合わせて果物をイチゴに変えたいとアピールしていた。

ほかの入賞作品には、郷土料理の「ふくめん」に似せた色とりどりのタルトや、麦みそを使ったマフィンなどがあった。

会場には約30の飲食店がブースを設け、大勢の市民らでにぎわった。(阪和舞)